

## 宇治市中学校給食検討委員会会議録（第8回 概要版）

第8回			
出席者	委員	坂本 裕子（京都華頂大学 教授） 野田 遊（同志社大学 教授） 岩崎 正樹（西宇治中学校 校長） 丹羽 寛美（大久保小学校育友会 会長） 中村 彩子（南宇治中学校育友会 会長） 高瀬 利奈（西大久保小学校 栄養教諭） 西本 真里（槇島小学校 栄養教諭）	日 時
			2019年7月3日(水) 14:00～15:30
	事務局	宇治市教育委員会 伊賀部長、上道副部長、三村課長、宮山係長、 岸田主事、山本主事 株式会社社長大 川田、小谷	場 所
			宇治市生涯学習 センター2階 一般研修室
欠席者	委員	藤井 宣夫（北小倉小学校 校長） 長谷川 良（木幡中学校 教諭）	
1. 望ましい中学校給食の方向性			
事 務 局	ただいまから第8回宇治市中学校給食検討委員会を開催させていただきます。 本委員会設置要綱第6条第2項に基づき、本日7名の委員にご出席いただいております。 委員の過半数以上が出席のため、本委員会は成立していることをお伝えします。		
坂本委員長	前回の議論の内容を踏まえた望ましい学校給食の方向性について、資料1で、4つの項目に修正いただいています。 それぞれの項目で、何かご質問やご意見はありますでしょうか。 経費概算について、土地の代金が入っていないと疑問に思われる方もおられたのですが、今回、土地取得の代金等も含めて、経費の見積もりは全てセンター方式のほうが安いという理解でよろしかったでしょうか。		
事 務 局	あくまでも参考資料として示した概算経費ですが、方式によって用地費を含むと経費的な面が逆転するとか、そういった状況にはないと思っております。		
坂本委員長	どういう取得の形になるかわからない部分もありますが、それを踏まえても、この中ではセンターが一番経費はかからない状況ということになります。経費のことは私たちが主に言うことではないので、そこはお含みおきいただいて、生徒たちにとって、あるいはそれを運営していく人たちにとって、中学校の給食はどの形が一番良いかということを進めていきたいと考えています。そういった点でご意見等いただけたらと思います。		
委 員	親子方式になると、中学校とは直接関係のない小学校に大きな負担もかかっていく状況もあるし、自校方式でも、現状では厳しいという部分があるような状況で、少し難しいのかと思います。ただ、センター方式にしても、土地の取得からしなければならないということで、例えば市の土地でどこか考えているところがあるのかとか、その土地が宇治市の中の端っこであれば、遠いところには時間がかかるでしょうし、何か目安みたいなものがあるのかを聞いてみたいです。		
事 務 局	幹線道路をいかに活用できる場所で用地が確保できるのかというのがネックになってきます。現時点でこの辺がという具体的な土地の場所があるわけではないので、何ともお答えのしようがないところはあります。 市の端から端まで行くに当たって、何時間もかかるような状況にはないので、範囲についてはある程度余裕を持った用地選定ができると思っています。		
委 員	地元の同意も得なければならないという部分で、工業地であればできるという認可制になっているのでしょうか。		
事 務 局	建築基準法の縛りとしまして、給食センターについては工場扱いになるということは間違いなのですが、それが工業地域とか準工業地域でしか建たないということではなく、手続を踏めば、その他の地域についても建築することが可能です。ただ、各地域住民の方に説明したり、一定の書類整備をしたり、それなりの手続の必要が生じていると		

	ころです。
坂本委員長	その他いかがですか。
委員	きめ細かいアレルギー対応等が心配です。中学校に上がると成長で体質が少し変わると聞いたので、アレルギーのきめ細かな配慮ができる自校方式が気持ち的にいいと思います。
坂本委員長	現場として、その辺りはいかがですか。
委員	自校のほうが、対する子供の人数が少ないので、きめ細かさや、実際に顔を見ての対応もできますし、保護者の方との距離も恐らくセンターよりは近いと思うと、アレルギーの点で言えば、自校方式がいいと思います。 ほかに、学校行事に対応するとなれば、センターだとなかなか難しい場面もあると思います。
坂本委員長	今中学校での自校はほぼ無理だという状況もあるので、それは理想だとは思いますが、親子であればそういった点は多少改善されるのか、親子ではセンターと余り変わらないのか、どうなのでしょう。
委員	親子方式は、自分の学校でつくっているわけではなく、親校につくってもらうので、自分の学校の行事で早く欲しいという状況でも親の小学校に影響があるので、その点は自校のほうが融通はきくだろうし、親子でもセンターでもなかなか融通がきかない部分はあるのではないかと思います。
坂本委員長	アレルギー対応で配食の段階の誤配や誤食が一番問題だと一方で聞きます。調理の現場でのアレルギー対応は完全にできていても、いざ食べる段階で、先生方が大変とも伺うので、そこは少し別問題として考えたほうがいいのかと思います。ただ、お互いの連絡や行事は、大きくなればなるほど少し密度が下がるとは思います。
委員	アレルギーは中学生であれば、これはやめとこうという判断はそれなりにできてくる部分もあるので、小学校の1年生とか幼稚園児ほど、配ったときの不安はそこまでではないと思います。そのかわり、全て表示は必要だとは思いますが。
坂本委員長	アレルギー以外にも、食中毒や、リスクの分散の面はどうお考えになりますか。
委員	アレルギーの話も、少人数に対してきめ細かく対応するに越したことはないのですが、他の地域でできていて、なぜ宇治市だけできないのかという話にもなります。これも明らかに費用の持ち出しの話なので、サービスの質をどれくらい維持するのか、どこで妥協するかという話です。 リスクの話も、集中的に管理したほうがいいのかとは思いますが、センター方式だと集中的に管理できます。一方で、複数あるほうが、どこかで食中毒が起きる可能性はあっても、その状況を最低限に抑えることができるので、それは複数でやったほうがいいのかということです。ただ、食中毒は一回でも起きてはいけないことなので、普通は集中的に管理するという発想な気がします。
坂本委員長	食中毒に関して、現場におられていかがですか。
委員	食中毒は出さないことが大前提としてあるので、自校方式でやってもセンター方式でやっても、それぞれ気をつけてやるということにはなります。また、センターなどでは、異物混入があったときや風水害の際のストップが全体に影響してしまう。それもあってはいけないことなので一緒かもしれませんが、それもメリット・デメリットがあると思います。
坂本委員長	親子方式というのは、結局センターの小さいものが幾つもあるという形になると思うので、集中的なリスク管理からは遠くなる方式かと思っています。自校については無理だという全体のご意見があるので、親子かセンターかということで、方向を考えていきたいと思いますが、よろしいですか。自校も入れておくほうがいいのか、いかがですか。
委員	各学校の实地調査をしてもらった結果、これだけ困難であるという状況が上がってきて、それでもさらに自校を進めることについては少し難しいところがあるとは思いますが。
坂本委員長	用地だけでなく、教育環境という問題が別途あると思います。実施に当たって、そこに至るまでの時間や物理的な要因で、教育環境が低下するということと、自校のデメリットは一斉にできないので、平等性を担保するには一番遠い方式だと思っています。
委員	確かに1年も2年も3年もずれているようでは、早くできた学校についてはいいが、

	後々の学校については、なぜこんなに差があるのという形で言われるのは当然の意見でしょう。
坂本委員長	今後子供の数もどうなるか等の将来性、統廃合等のことを考えると、つくっても使われなくなる中学校もあるかもしれません。そのことを考えると、理想ではあるのですが、ここの俎上に載せるには、自校が一番端になってしまうと考えますが、よろしいですか。そうしたら、今進めたいと思うのは、センターか親子と。親子でも、小学校に迷惑をかけないで、中学同士も可能なと私は思うのですが、いかがでしょうか。
事務局	中学校から中学校という手法もあります。
委員	親になるほうが負担は大きくなるので少し大変だと思います。工事で中学校のグラウンドに入れなかつたりするのも、少し問題だと思います。中学校同士でやれたらいいのですが、調査結果を見ても少し無理そうだと思います。
委員	資料の黄檗中学校の中で、宇治小学校の給食室を活用するとありますが、1回では無理なので2回転させる必要があります。限られた時間の中におさめるために2回転というのは可能なのですか。
委員	時間に余裕があって2回転できるのであれば、今の小学校のそのままの施設を2回転したら良いが、皆さん一生懸命やってもらっているもギリギリになっているような状況なので、なかなか厳しいと思います。
委員	センター方式にする場合、1ヶ所しか考えていないのですか。
事務局	1つにしても2系統とか、リスク管理をどうするのかという話にもなってきます。先ほど用地の話のとおり、結局中学校の食数全部を調理できるスペースが確保できないのであれば、用地を2ヶ所分確保できたら2ヶ所にする選択肢もあると思います。自校も親子も全部含めて、リスク管理をどのようにしていくかというのは出てくる。センターにおいては、それが施設数にかかってくるというところかなと思います。
坂本委員長	伊丹に視察に行かれたとき、2レーンあったのですか。
委員	基本的に伊丹は1つでした。2つやっているところは、事例ではあったと思います。
委員	資料の費用からすると、これは1ヶ所分ということですね。2ヶ所建てるとなったら、倍まではいかないが、それぐらいの金額で高くなると考えたらよろしいですか。
事務局	倍まではいかないとは思いますが、2ヶ所建てれば当然経費はかかってくると思います。
坂本委員長	アンケート結果を見ると、保護者の方の要望が強いですね。中学校給食にかかる経費で、中学校の給食費だけの話だと思いますが、最低限で行うべきというのが3割弱おられます。余りコストをかけてほしくないところもあるかと思いますが。いろんなご家庭があるので、経費のことも抜きには考えられないと思います。センターから配送してきたときに、学校での負担というのはどんな感じになりますか。配膳のための部屋をつかって、そこで受け取るということは変わらないのでしょうか。
委員	自校なら、宇治の今の小学校は給食が教室の前まで行っています。親子方式にしてもセンター方式にしても、配膳室というのがあって、配膳員さんがいて、そこで各クラスにとりに来てもらうという形になると思います。
委員	今の小学校は調理室から調理員さんが各教室の前まで運んでおくということですね。
委員	はい。
委員	それは給食用のエレベーターが全小学校に完備されているわけですか。
委員	そうです。
委員	伊丹市さんの場合、例えば熱いみそ汁の寸胴があるとすれば、それを3階まで持っていくのは、階段を上がっていくようなイメージですか。
事務局	給食が届けられる場所は1階にあるので、そこから教室までは生徒の方々が持っていくという形をとっています。
委員	何か特殊な絶対にこぼれないような対策はされているのですか。
事務局	こぼれにくいような容器ではあると思いますが、あとは皆さんで気をつけて持ってもらっていると思います。
事務局	中学校の場合は、施設整備的には小学校と同じような状況にないことは事実です。小学生と中学生の体格の差もあり、手で持っていくという形をとられていると思っています。

	す。
委員	例えば1クラスのおかずでどの程度の大きさになるのですか。
委員	自校のおみそ汁やおつゆ等で、高学年が7リットルか8リットルぐらいです。
事務局	伊丹市さんの場合は、こぼれにくい容器で、危険のないようにというところを前提とした容器で移動されています。
委員	給食用のエレベーターを設置する必要までではないということですね。
事務局	要望は出てくると思いますが、今前提条件としては、施設整備費にはその整備まで入っていません。
坂本委員長	資料1を見て、宇治市の中学校給食の望ましい方向性とはこの形で良いのか、前回の意見を受けて修正しましたが、ご検討いただいてよろしいですか。
委員	実施する中で、どの方式にするかの基準として、最初の方向性がそれぞれの方式においてどこかに該当する形になると思っていました。方向性のところに、持続可能な財政に基づくものもないので、どうなのかというのがあります。
事務局	資料2の8、9、10ページにそれぞれの方式についてご議論いただいている中で該当するような項目はなかったのですが、ご意見があったものを(4)として書かせていただきました。この方向性の中から(4)を外すということは、それはそれで結構かなと思っています。
委員	この議論は結構重要なポイントであったので、それは置いておく必要はありますが、1対1対応という形で、後には特に反映しないということですか。
事務局	前段のメリット・デメリットシートをご議論している段にはこういった議論があったので、それを別建てで上げさせていただきました。
委員	整理しにくいのであれば、このままでももちろん良いのですが、何かしっくりこない感じがありまして。一方で、経費の話が最終的に全部きいてきて、今回の議論における非常に重要なポイントになっているにもかかわらず、最初の基本的事項で経費を考えていないというのがありました。
事務局	財政の話は最初に置いておいたほうが、良いような気がします。
事務局	検討委員会の中でご議論いただくというよりも、検討委員会からご意見を頂戴した後に、我々が基本構想を策定し、実際どう進めていくのかという中で、改めてお預けいただきたいと考えています。
事務局	最終的な実施方式を決める段では一旦経費については横に置いていただいたら良いです。ただ、イメージとして、大体の初期投資や、イニシャルコストがかかるということは念頭に置いていただきたいです。
坂本委員長	少し話は変わりますが、中学校給食をして、ちゃんと子供に還元しているというか、親が楽と言ったら変ですが、親の負担感を減らすというところの魅力ある市づくりを全面的に押し出して、子供のことも十分考えた都市づくりをしているというアピールや、メリットの浸透性を図るのはいかがか。
委員	他市が行なっていて、宇治市だけ実施していないという環境において、ある程度行なって魅力ある形にしていくことによって、人口が増えていけば、状況は大きく変わり、一気に税収も増えて経済状況はかなり変わってきます。環境条件をもっと広く捉えるべきだという議論はもちろんあると思います。
坂本委員長	これまでの振り返りのところで、4番については、公平性の観点、時期を一緒になどの点の重要性を言っていたので、入れてもらったという考え方でよろしいですか。
事務局	それでは、何方式が良いかの案を検討委員会としてまとめて出したいです。次回、その議論にのっとった検討委員会の報告案を出してもらうので、それで良いかということと最終確認をしていただき、委員会としては役割を終えたいです。今日、方向性はこれで良いとなりましたが、方式についてもう少しご検討いただいて、案を出したいと思えます。
事務局	現状宇治市ではどの方式でやっていけるかのご意見を、それぞれおっしゃっていただいてよろしいですか。
委員	例えばアレルギー対策や食中毒など、一点に集まることによっていろいろ不安な部分はあるが、その部分についてはマニュアルを徹底して、例えば仕入れを2系統にして半分ずつ別の釜でつくるなどの対応はできるような気はします。センター方式だから全く

	<p>リスクが回避できないということではないと思います。</p> <p>この方向性の中で、環境への影響や実施時期を考えてみると、私は、センター方式が一番現実に近いと考えております。</p>
委 員	<p>センター方式がいいと思います。一日も早く実現していただくためにはやはりセンター方式と思います。</p>
委 員	<p>まず自校方式は理想だけど、現実的に厳しい。親子方式は距離的にも次に近いので、連携もとりやすいと思ったのですが、献立を考える立場では、小学校の栄養価と中学校の栄養価はまた全然違うので、中学校の栄養価まで達せられるような給食を提供できるかと思います。</p> <p>センターはおいしい給食がつけられるような設備や、子供たちが安全に運べるようなもの、給食の機器、食缶や食器も子供目線で見ないといけないのですが、そこがきちんとできるかということが気にはなりました。</p>
委 員	<p>保護者の方も早期に給食を実施してほしいということなので、やはり早く実施できる方式を一番に考えて、各学校の用途とか用地にもよるので、いろんな形式があってもいいのではないかと思います。</p>
委 員	<p>センター方式が一元管理できるという点もあり、早期にできるのではないかといいところはあります。全体一緒に始めるということを見ると、やはりセンターが良いと思います。</p>
委 員	<p>センターがいいと思います。自校も親子方式であったとしても、既存の施設をそのまま利用してということができないので、一定の投資、要するにその3つを比べたときにセンターの痛手が一番大きくないかと思う。小学校がこれからどうなっていくかということとを予測していくと、センターをもとにしながらもう一回再配置を考えていくのかなという気がします。</p> <p>工事とかで運動場が制限されたりするというのは現実問題としては実はとても大きい影響のような気がします。</p>
坂 本 委 員 長	<p>リスク管理をどうするかということで、0157からは時間的にも大分経っているので、かなりリスク管理も徹底されてきたと思います。ただ、1つがいいのか、もう少し分散されて2つもいいか検討していただく中で結論を出したらと思います。また、最近地産地消が掲げられますが、余り大きさの違う地場産物が入ると使えないデメリットが出てきます。だから、地産地消を考えると、センターでは少し不利かと思います。どういう形で地産地消を受け入れていくのかも考えたいところです。</p> <p>また、調理場と離れるので、方向性のところにあるような食育の推進という部分についても配慮ができるものがあると良いとは考えています。そういう点の配慮も考えてもらいながら、教育環境とか早期実現の公平性とかを考えると、現状ではセンターにしていくほうが、いろいろな負担がなくというか、不公平感もなく進められるのかなと思います。</p> <p>委員会としては、センターのほうで検討していただくという結論にさせてもらってもよろしいですか。</p>
委 員	<p>一日でも早く中学校給食を導入してほしいという思いはあるのですが、学校現場は本当に仕事もいっぱいな状況で、例えば配膳員や、食育の観点の栄養教諭の設備、人的な配置をぜひ市教委のほうにはお願いしたい。</p>
坂 本 委 員 長	<p>まず現場の先生方の教育というか、理解を深めてから進めていかないことにはうまく実現しません。そういったことも付記していただいて、委員会としての方式についてはセンター方式が望ましいということで記述させていただく方向で案を考えていきたいと思っています。</p>
事 務 局	<p>報告書の案を事務局で作成させていただいて、次回の委員会でまたご議論いただきたいと考えておりますので、次回もどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、誠にありがとうございました。</p>
坂 本 委 員 長	<p>これをもちまして閉会したいと思います。今日もどうもありがとうございました。</p>
	以上

